

拙 宅付近の公道で老朽化した水道管を耐震性のものに取り換える工事をしています。事前に配布されたピラでは、一斉工事ではなく、工事区間を定めて区間ごとに通行止めもしくは片側通行にしながら工事を行い、同一区間においては期間を変えて計3回掘削するとのことでした。

さて、実際の工事予定日になっても全く工事着手の様子もなく、もちろん変更連絡もありませんでした。再度工事予定のピラが配布されてきたのですが、工事予定日を過ぎて全く着手していません。一方では、すでに2回目の掘削が終了した区間もあります。工事期間中は生活への影響が若干あるものの断水はないのですが（場合によっては自家用車の入出庫への影響は懸念されます）、連絡ないまま2回も工事予定を変更されたことに不信感がつのります。

筆者の知る通信関連の工事では、コスト削減や渋滞等近隣への影響の最小化のために、掘削回数の削減を始め工程や日程の精査をかなり綿密に行い、工事に当たっては関係者や近隣への対応も適切に行っているはずなのですが、それと比較して大きな違いに驚きを隠せません。それとも公共工事では当たり前の世界なのでしょうか。 (I.O)

こ こ最近、新しいスマホアプリの開拓を怠っていたのですが、必要に迫られて天気予報アプリを探してみたところ、その進化の度合いに驚きました。いずれも日本気象協会などから情報を得ているので精度は高いだろう、くらいには思っていたのですが、雨雲・気圧・台風・落雷などから、防災情報、花粉・UV指数・風向・体感温度等まで幅広い情報を扱っています。

週間予報などはテレビでも確認できるので、私にとっての魅力は5分、10分、1時間後など少し先のお天気です。アプリは端末のGPS情報から今いる地域を常に把握し、〇〇町〇丁目といったピンポイントの範囲で、正確な予報を表示してくれます。庭仕事をしていた際に、アプリからウォッチに「〇〇町〇丁目に雨雲が近づいています」などとショートメールが届き、道具を片付け始めたおかげで濡れずに済みました。まさにこういう使い方を望んでいたのです。笑。

基本の気象情報はそれほど変わりないと思われるので、アプリ選びの基準はインターフェースの好みとなるでしょう。現在地がマーキングされた地図上に雨雲が表示され、時間軸をずらすことで最大半日先くらいまで、雨雲の流れが分かる雨雲レーダーを重宝しています。 (Y.H)

こんな時が危ない!

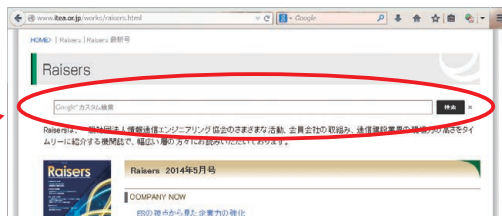
- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知していて、そこへ行った時

「Raisers」はホームページで閲覧可能です!

「Raisers」の最新号から過去記事までホームページで閲覧することができます。

<http://www.itea.or.jp/works/raisers.html>

また、ホームページ内の検索窓から
読みたい記事の関連キーワードにより全文検索も可能です。
是非ご活用ください。



Raisers第69巻第5号(通巻第750号) 2021年9月10日発行

■編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-1 如水ビルディング6階

Tel. (03) 3288-0608 Fax (03) 3288-0615

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)